

ゆめじゅく

2022(令和4)年

〒792-0821 新居浜市瀬戸町7-30
TEL : 0897-41-5859 (Fax 兼用)
E-mail : seto@city.niihama.lg.jp

11月

11月の予定

★移動図書館青い鳥号	★人権のつどい日	月	日	曜日	日
2日・16日・30日(水)	11日(金) 19時30分~21時				
14時~14時40分	★人権・同和教育関係行事				
★ゆめじゅく編集委員会	1日(火) 東予地区人権・同和教育研究協議会				
7日(月) 13時30分~	10日(木) 愛媛県人権・同和教育研究大会(松山市)				
★回転木馬	26日(土)・27日(日)				
9日(水) 10時~	全国人権・同和教育研究大会(奈良市)				
	29日(火) 新居浜市小・中学校人権・同和教育研究大会				



大掃除のお知らせ

いつも瀬戸会館を利用いただきありがとうございます。

さて早いもので年末が近づいてまいりました。恒例の瀬戸会館大掃除を各サークル・団体ご協力のもと、行いたいと思います。昨年と同様各サークル2~3名程度の参加をお願いします。1年のほこりをさっぱり落とし、新しい気持ちで新年を迎えたいと思います。ご参加・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

日時 2022年 12月4日(日曜日) 10時~11時半(予定)



新刊図書

こんな人生に、使命は宿るのか。片足の祖父、不登校の甥、大切な人を失った主人公のみのり。絶望に慣れた毎日が、一通の手紙から動き出す。慟哭と感動の傑作長篇「タラント」(角田光代著 中央公論新社)

人生で何かを成し遂げ、名を残すのは一握りの人だけでしょう。それ以外の人達は、失敗を恐れて挑戦できなかったり、挑戦しても上手くいかずに途中で挫折したり、続けてみたものの名を残すレベルにならなかつたりするのでしょ。ですが、そんな人達にもタラント(神から与えられた賜物)はある、何度くじけたっていいじゃないか。神様が与えてくれた人生を、自分にしか出来ない働きをして歩んで行きたい。と背中を押してくれる本です。是非、ご一読ください。

角田光代
あきらめた人生のその先へ

地元からのお知らせ

秋祭り、子どもたちのはじける笑顔に拍手喝采!!子どもも大人も、3年ぶりの開催にわくわくドキドキでした。

前日の朝の天気予報では16日から17日は「雨もよう」となっていましたので心配をしていますが、それでも2日間とも予想以上に子どもたちの参加が多くあったのでうれしい限りです。保護者の皆さん、自治会の皆さん方の協力のもと組み立てから運行、片付けまで無事に祭りを終えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも子ども太鼓台を温かく見守っていただきますようお願いします。17日には浦戸神社お神輿の巡行(瀬戸会館:12時)も併せて執り行いました。(子ども太鼓台運営委員会瀬戸・寿連合自治会)



人権のつどい日

10月は、新居浜市市民環境部地域コミュニティ課で国際交流員として勤めるマレーシア出身のファラさんを講師としてお迎えし、「外国人から見た日本」と題してお話していただきました。

ファラさんは、小さい頃に、木村拓哉さん主演の「ビューティフルライフ」というドラマを見たのがきっかけで日本語に興味を持つようになり、2007年から6年間、日本に留学をしました。

しかし、外国人に対する日本人の対応に違和感をもち、一度は、マレーシアに帰国しました。しかし、縁があって日本大使館に勤務し、再び日本に戻りたくなくて4年前に新居浜市の国際交流員として再来日しました。

15年前と比較して、ファラさんは、外国人に対する「おもてなしの精神」が日本人に広まっていると感じています。ただ、観光客に対する「おもてなしの精神」はあるのですが、日本人には、外国人と共に生きていくというところまであるのでしょうか?とファラさんは問いかけます。日本はすでに、多文化・多民族社会になっています。外国人は、近所に住むお隣さんであり、職場の同僚であり、学校の仲間です。外国人を受け入れることとは、その人たちの文化・習慣・信仰も受け入れることになる、とファラさんは、私たちが抱える課題について話されました。

最近、ダイバーシティ(Diversity)、直訳すると多様性という言葉をよく聞きます。多文化・多民族社会になった今、多様性を尊重していくためには、私たちはどのようにすれば良いのでしょうか?それは、ファラさんの最後のメッセージ、「してあげる」から「一緒にしよう」、「みんな一緒」から「みんな違う」というように私たちの意識を変えていくことではないでしょうか。



島崎藤村の不朽の名作を映画化した「破戒」

監督 前田和男
脚本 加藤正人

今月どうしても観たい映画があり、今回は高松まで行ってきました。

島崎藤村、不朽の名作「破戒」が、60年ぶりに映画化されました。原作との大きな違いは、子どもたちと丑松の物語に重きをおいていることでしょう。原作で丑松が教えていたのは、14歳くらいの中学生にあたる年代の子どもたちでした。しかし、本作では小学生くらいの子供たちに教えています。丑松は、差別される立場の子どもたちに寄り添い、差別される立場だからと諦めず、教育をしっかりと受けることが大事だと伝えます。また、差別をする子どもたちに対しは、大人がしているからといって差別するのはおかしいと説きます。丑松は、繰り返し勉強は大切だと説きます。教育の大切さを訴え続ける丑松の心の内には、今の自分があるのはひとえに教育を受けられたおかげだという思いがあるからでしょう。

教育は未来への架け橋なのです。教育の大切さは明治の世だけに限らず、現代にも言えることです。そして、差別をなくそうとする強い意志をもって、未来を切り開いていってほしいという願いを、丑松は教え子に託します。教え子に託した未来への希望は、映画を見ている観客に対してのメッセージでもあります。

映画のラストで、教師をやめ、東京へと向かう丑松と志保を見送りに、子どもたちが駆けつけます。二人の教員が、学校に帰るよう叱っても、見送りたいという強い意志を口にした子どもたちの姿は、丑松の教えがきちんと子どもたちに伝わっていると感じられ、胸が熱くなります。

一方で、「いつか部落差別がなくなったとしても、新たな差別が生まれているかもしれない」と、猪子連太郎が心情を吐露する場面が登場します。丑松が、「人間というものはそれほど愚かな生き物でしょうか？」と猪子に問います。猪子は、「愚かではないが、弱いんだ。弱いから差別する」と諭します。私たちにに対してこの言葉は突きつけられていると、ハッとさせられました。

60年ぶりに映画化されたこの作品は、原作のメッセージ性や明治の世情を描きながらも、現代にも通じる問題を浮き彫りにしています。未来への世代へと希望を託す丑松の思いを描き、現代を生きる私たちもその希望を受け取り、未来へと託していかないといけないと考えさせられる作品でした。



引用元 <https://hakai-movie.com/>

瀬戸会館使用状況

11月



月	火	水	木	金	土	日
	1 ハンドメイド えんとつ山 詩吟 フラダンス レインボーB 書神会 ZUMBA TDS	2 水美会 詩吟 FT水曜会 空手	3 	4 健康体操 メヌエット ピンポン フラダンス	5 3B体操 スクエアダンス 游書道	6
7 楠木クラブ ピアノクラブ すみれ ピンポン べっぴんさん E Dance school fun	8 えんとつ山 ハンドメイド 詩吟 つまみ細工 フラダンス 書神会 ZUMBA TDS	9 水美会 空手	10 男の料理教室 どんぐり 紙バンド レインボーA	11 ピアノ10 健康体操 ピンポン フラダンス 人権のつどい日	12 スクノマの会 てんこく ポーセラーツ FT水曜会	13
14 楠木クラブ ピアノクラブ ピンポン べっぴんさん E Dance school fun	15 ハンドメイド えんとつ山 詩吟 フラダンス レインボーB 書神会 TDS ZUMBA	16 水美会 ポーセラーツ ハタ・ヨガ 空手	17 どんぐり 紙バンド レインボーA	18 メヌエット 健康体操 ピンポン フラダンス	19 游書道	20
21 楠木クラブ べっぴんさん ピンポン E Dance school fun	22 えんとつ山 ハンドメイド 詩吟 フラダンス 書神会 ZUMBA TDS	23 	24 どんぐり 紙バンド レインボーA	25 ピアノ10 健康体操 ピンポン フラダンス	26 スクエアダンス てんこく	27
28 楠木クラブ ピアノクラブ すみれ ピンポン べっぴんさん E Dance school fun	29 ハンドメイド 若葉会 詩吟 つまみ細工 フラダンス レインボーB 書神会 TDS ZUMBA	30 水美会 FT水曜会 空手				

赤色：午前
青色：午後
黒色：夜間

注意) 毎月の申請締め切りは前月の15日です。こちらは10月20日現在の予定を記載しております。